

# いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



## 日本の活断層

岩手大学地域防災研究センター副センター長・理工学部システム創成工学科准教授 越谷 信

日本列島には多数の活断層があることが知られている。図には、主に活断層によりもたらされたずれによって形作られた地形を読み取ることで得られた活断層を示している。活断層の密度の最も高いのは、中部地方から近畿地方北部にかけての地域であり、伊豆半島周辺や九州中部の火山地域にも多くの活断層がある。

これに対して、活断層の密度の低い地域は、北海道北部、北上山地-阿武隈山地-関東平野にかけての地域および赤石山脈-紀伊山地-四国山地-九州山地にかけての地域である。これらの活断層のうち、主要なものとして97断層帯を抽出し、文部科学大臣を本部長とする地震調査研究推進本部により長期評価が行われている。

活断層の方向と種類にも地域の特徴がある。北海道から東北地方では、奥羽脊梁山脈、内陸盆地列、火山フロントに平行な東北本州弧の東に張り出した弧状の形態に沿って活断層が発達する。これらのほとんどが逆断層であり、山地と盆地の境界をなすことが多く、地震時には山地側を隆起させる向きにずれる。

中部山地や近畿地方北部では、北西-南東走向の左横ずれ断層、北東-南西走向の右横ずれ断層および南北から北北東-南南西走向の逆断層が発達する。近畿地方北部では、これらのうち逆断層が最も多く、これらの断層は鈴鹿山脈や生駒山脈などの山地と盆地の境界をなしている。

伊豆半島周辺では、中部山地と異なり、右横ずれ断層が北西-南東走向であり、左横ずれ断層が北東-南西または南北走向である。これは、伊豆半島がフィリピン海プレートに属し、日本列島の属する陸

側プレートに衝突しているという特異な状況のためと考えられている。

中国地方から九州中北部には、主に北西-南東走向の左横ずれ断層および北東-南西方向の右横ずれ断層が分布する。九州中部の別府湾から島原地方に至る火山地帯には、東西走向の正断層が発達する。この断層群は、南西方向にある沖縄トラフに発達する正断層群に続く。南西諸島では、島弧列に直交する北西-南東走向の正断層群が発達する。



日本における活断層分布 中田・今泉編(東大出版会、製品シリアル番号:DAFM0955)を基に作成